〔源氏物語湖月抄二十八野分〕孟鎮帷犀とて、几丁など吹上るをとゞむる物あり、

〔安齋隨筆後編二〕一鎮帷犀〇中略　貞丈按、鎮帷犀ノ犀ノ字は豺ノ字歟、あまいぬ、こまいぬ成べし、禁門の扉のあふるをおさへ、簾几丁の吹あくるをおさへるもの也、神前の扉の前にもあり、

〔禁腋秘抄〕紫宸殿

節會、二孟旬、主上春宮御元服ナドオコナハル、母屋ノ中央ニ御帳ヲタツ、中ニ御倚子ヲタツ、師子コマ犬、御帳ノ外ニアリ、〇中略

清涼殿

常ニワタラセ給殿ナリ、中殿トモ云、〇中略　御帳ノ帳ヲカケタリ、四幅四條、五幅四帖也、三方ノ中ヲアケテ、後幷ニ四ノ角ヲ垂タリ、四尺ノ木帳三本、三方ノアキタル下ニ立、後ハ三尺ノ木帳ナリ、御帳ノ帷ヲ垂タルガ故ニ、木丁御帳ノ長ノ方ニスヂカヘテ立、内ニ雲網ノ御座三帖ヲシク、御帳ノ前ノ下ニ左右ニ師子狛犬有、〇中略

夜ノヲトヾハ、御帳日ノ御座ノ如シ、壁代懸タリ、四ノ隅ニ燈爐有、搔灯ノ所ニクハシク見ヘタリ、御帳ノ御枕ノ方ニヅシ二、アトノ方ニ鏡カケタリ、晝ノ御座ニ同ジ、御イカナド此所ニタテラル、板敷ノ下、シツケヲ去ンタメ、三尺バカリ深ク堀タル由、古老傳ニ有由、長暦御記ニ見ヘタリ、

〔空穗物語吹上之下〕よにいりて、ついまつまいる、ゐたけ三尺ばかりの玄ろがねのこまいぬ、くちあふていすへて、ぢむをからのほそくみして、ついまつにながくたひて、よ一夜ともしたり、

〔枕草子五〕めでたきもの

みやはじめのさほう玄、こまいぬ、大玄やうじなどもてまいりて、御ちやうのまへに玄つらひすへ、〇略下

〔榮花物語六かゞやく藤壺〕中宮〇藤原彰子は四月〇長保二年つごもりにぞいらせ給、〇中略　このたびは藤つ